

こころん だより

2020
春号
Vol. 12



こころん



特集1

学校現場における子どもの人権

文：高知県教育委員会人権教育課

特集2

こころんの
社会見学

“ネット社会の歩き方”を発信！
～人を傷つけないネット活用法を、大学生と学ぶ～

学校現場における 子どもの人権

文：高知県教育委員会
人権教育課 主任社会教育主事 神野 博敬

いじめについて

いじめを防止するために

いじめは、人としての尊厳を傷つけるものであり、子どもの生命や心身の成長、人格の形成に影響のある重大な問題です。

高知県教育委員会では、これまでいじめの防止等の取組を推進してきましたが、いじめでつらい思いをしている子どもが今もなおいることなど、まだまだ課題があると考えています。

どういうことが「いじめ」にあたるのか

これまでのいじめの定義は、「一方的に」「継続的に」「深刻な」などの要素が含まれており、社会通念上の深刻ないじめに限定して「いじめ」と捉えられていました。

しかし、いじめ防止対策推進法(平成25年6月制定)に規定された「いじめ」は、その考え方よりとても広く、いじめを受けた子どもが心身の苦痛を感じた場合は、「いじめ」にあたりとされています。*

国立教育政策研究所のいじめの追跡調査(平成28年6月)によれば、ほとんどの子どもがいじめの被害や加害を経験しており、また多くの子どもが入れ替わり被害や加害を経験していることがわかっています。このことから、「いじめはどの子どもにも、どの学校でも起こりうる」という捉え方が重要といえます。

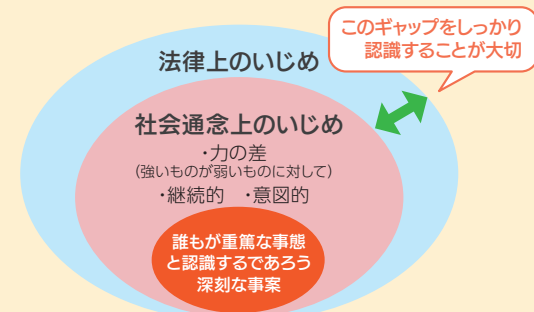
このような状況を踏まえ、すべての大人がいじめに



ついでにの考え方を理解し、ささいなことでもいじめとして積極的に捉えることで、いじめの被害を見落とさず、見逃さず、いじめから子どもを守る取組を行っていくことが大切です。

* いじめの定義(いじめ防止対策推進法 第2条)

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。



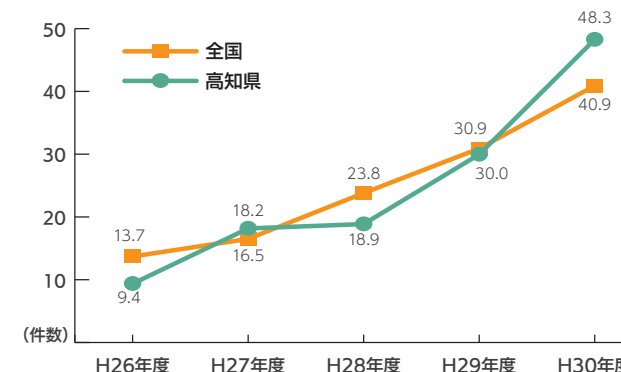
いじめに対する意識を高める

「いじめ防止対策推進法」の制定以降、高知県におけるいじめの認知件数(いじめとして学校が認知した件数)は、毎年増加する傾向にあります。各学校では、教職員間の情報共有や授業、学級活動等での子どもの観察等に組織的に取り組んでおり、このような取組を通じた教職員のいじめに対する意識の高まりが、いじめの認知と

ともに未然防止や早期対応にもつながっていると考えています。

また高知県教育委員会では、県民総ぐるみでいじめの防止等の対策の推進を目指す「高知県いじめ防止基本方針」に基づいて「『高知家』いじめ予防等プログラム」を作成し、令和2年度当初に学校、保護者、地域、関係機関・団体等に配布する予定です。県民一人ひとりがいじめに対する理解をさらに深め、すべての子どもの人権が守られ、安心して生活を送ることができる社会を一緒につくっていきましょう。

DATA
国・公・私立学校いじめ認知件数の推移
高知県と全国の比較(1,000人当たりの件数)
(H30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より)



不登校について

不登校の子ども一人ひとりを支える

現在、本県の不登校の出現率は全国と比較しても高く、不登校の子どもが増加する傾向にあります。不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクもあることから、子ども一人ひとりに応じた適時適切な支援が重要となります。

より幅広く、切れ目のない支援へ

高知県教育委員会では、子どもたち一人ひとりに居場所のある学級・学校の実現や「わかる授業づくり」など、子どもにとって魅力ある学校づくりを推進しています。また、課題や悩みなどのある子どもに適切に支援できるようスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置拡充を進めています。さらに、令和2年度より、各学校に不登校担当の教員を位置付け、初期段階からの組織的な支援体制を整えるとともに、各市町村の教育支援センターなど、学校以外の学びの場の充実を図っていく予定です。

このように、学校と教育支援センターなど関係機関との連携を強化し、就学前から高等学校までの各段階において、個々の不登校の子どもに応じた切れ目のない適切な支援がさらに充実するよう取組を進めていきます。

子どもたちの明るい未来のために

不登校やその他、様々な背景・要因により支援を必要としている子どもたちがいます。

高知県教育委員会では、学校、家庭、地域、関係機関が連携し、県民総ぐるみで子どもの人権を守り、健やかに育むことのできる社会が真に実現するよう取り組んでいきます。

すべての子どもが自分の夢や目標に向かって生き生きと生活し、心豊かで笑顔あふれるよう、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いします。

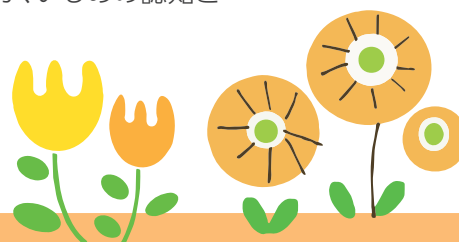
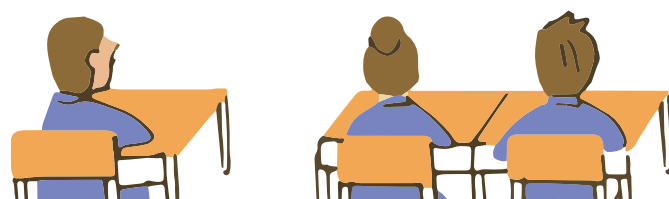
▶ この記事に関するお問合せ先

人権教育課 ☎088-821-4765

子どもの人権に関する相談窓口

- 高知県心の教育センター
☎0120-0-78310(24時間子どもSOSダイヤル/無料)
- 少年サポートセンター
☎088-822-0809(ヤングテレホン)
- 高知地方法務局
☎0120-007-110(子どもの人権110番/無料)

- 高知県中央児童相談所
☎088-866-6791
- 高知県幡多児童相談所
☎0880-37-3159
- 高知県教育委員会事務局人権教育課
☎088-821-4765



こころんの社会工学 “ネット社会の歩き方”を発信！ ～人を傷つけないネット活用法を、大学生と学ぶ～

高知工科大学の学生で構成される「Cykut(サイカット)」は、サイバー空間における人権侵害や詐欺、不正行為などから子どもたちを守り、インターネットの安全な活用法を広めるための活動を行うボランティア団体です。彼らの取り組みについて、こころんが取材してきました。



お話をくれた人

高知工科大学 Cykut

代表 藤原 晴さん
(情報学群 3年)

神崎 玲於さん
(システム工学群 2年)



▲ 高知県警察本部より「高知県サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受ける(令和元年度)

県内の小・中・高校生に 大学生が啓発活動

インターネットは今や子どもたちにとって最も身近な通信・交流ツールのひとつです。近年、SNS*の拡大とともに人を傷つけるような情報の拡散やグループ外しによるいじめ、あるいは詐欺や不正アプリなど、子どもたちの周辺でネットトラブルが増加していますが、僕たち「Cykut」は、だからといって子どもたちをインターネットから遠ざけるのではなく、そこに潜む危険性や正しい使い方をきちんと伝えることで子どもたちがインターネットを有効に活用できるようになることが大切だと考え、活動を行っています。

※ SNS: ソーシャル(社会的な)ネットワーク(繋がり)を提供するサービス。代表的なものはLINE、Facebook、Twitter、Instagramなど。

取り組み1: 講演活動

SNSの安全な使い方を 子どもたちと一緒に考える

柱となるのは、高知県内の小・中・高等学校での講演です。現在、年に3～4回ほどのペースで行っており、例えば「SNSの落とし穴」や「スマホ依存症」といったテーマで具体的な事例を出し、「どう思うか」、「どうすれば防げるか」を生徒たちと一緒に考えていきます。現場の先生方からは、年齢の近い大学生が教えることで子どもたちの心に響いているようだと言ってくれます。また生徒だけでなく、教員を対象にしたSNSの特徴や危険性、情報モラルなどを知ってもらう講演も行っています。

取り組み2: 教材づくり

最新の情報を提供し、 教材づくりに活かす

インターネットトラブルは自分が被害者にも加害者にもなる可能性があり、また常に新しい問題やウイルスなどが出てきます。そこで僕たちは、自分が気になったインターネットに関する最新情報をスライドにして、定期的にメンバー内で情報交換する「ライトニングトーク」という取り組みを実施。その中から有効だと思われる情報を高知県人権教育課に提供し、授業の教材や注意喚起の配布物などに活用してもらっています。このライトニングトークは、講演活動の素材としても活用しています。

取り組み3: サイバーパトロール

ネットに潜む犯罪を見つける

また、高知県警察本部から委嘱を受けて行っているのがサイバーパトロールの活動です。これは、SNS上に援助交際など犯罪につながる書き込みがないかチェックするもので、僕たちは主にTwitterを対象に実施しています。見つけたらまずTwitterに通報し、県警にも連絡。昨年度は年間200件以上の書き込みを通報し、警察庁から感謝状もいただきました。

情報化社会を生きるために

技術やシステムがどんどん進化していく情報化社会では、人間もそのメリット・デメリットを理解し、知識を“アップデート”していく必要があります。この活動を通して自分たちもさらに専門性を高め、また子どもたちには情報化社会と一緒に成長していける人になってほしいと願っています。

発見こころん

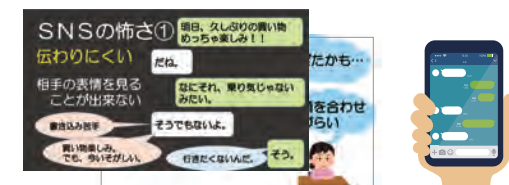
「Cykutが作成に協力」

ネット利用に関する様々な教材ができていたよ！



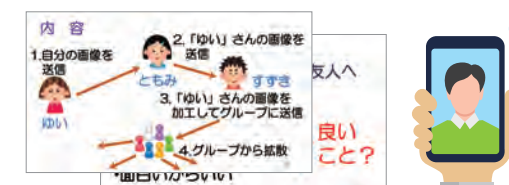
事例① SNSの怖さ

相手の表情が見えないLINEでの会話は、「伝わりにくい」「言葉が過激になりがち」という特徴がある。送信前に、「誤解を生まないか」「心を傷つけていないか」見直そう。



事例② もらった画像は誰のもの？

SNSで自分の画像を友人に送ったら、別の友人に送信され、加工されて拡散された。「悪ふざけ?」「楽しければいい?」「なぜ画像を送った?」それぞれの立場で考えてみよう。



★教材データは、「高知県ネット教材作成委員会」のページから無料でダウンロードできます。ぜひご活用ください。

Q 高知県ネット教材作成委員会

検索

人を傷つけたり
悪意のある手口に引っかからないよう
正しいルールと使い方を
学んでいきたいね！



高知工科大学サイバーボランティア団体 「Cykut(サイカット)」

所在地: 香美市土佐山田町宮ノ口185 高知工科大学
TEL: 0887-53-1111 (大学代表)

情報や工学を学ぶ学生有志により、2014年に結成。メンバーは現在7人で、顧問は吉田真一准教授。人々が安全に安心してサイバー空間で生きていけるよう、学んだ専門性を活かし活動している。



高知工科大学 香美キャンパス

第3回 ハートフルセミナー

映画「道草」上映会と穴戸大裕監督講演会を行いました

実施日：令和2年1月26日(日)13時30分～16時 / 参加者：128名
会場：高知県立人権啓発センター6階ホール

映画「道草」は重度の知的障害と自閉症のある3人が、介護者付きでひとり暮らしをする風景を撮ったドキュメンタリーです。講演では、この映画を撮るきっかけとなった岡部耕典さん(映画に登場するリョースケさんの父)との出会いや映画を撮影する中でふれた登場人物のユーモアあふれる人間らしさなどを紹介し、「明確じゃないものの中にも意思の通い合いがあると感じた。相模原の事件では、本人たちは言葉がなくて意思がないと決めつけられていましたが、彼らに意思がないように見えますか?」と問いかけられました。

また、2014年の重度訪問介護制度の対象拡大により、身体障害者だけでなく、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きの一人暮らしができる可能性が広がっているが、実際にそのような暮らしをしている人は全国でも100人程度ではないか、地元仙台でも「道草」のような暮らしができるように制度を作っていくと取組を始めたことなど、この映画を通じて伝えたい思いを率直に穏やかに語られ、会場は和やかな一体感で包まれました。高知県内でも、この映画や制度が広がることを願っています。



★ 監督が紹介した本

- 『ズレてる支援! ～知的障害/自閉の人たちの自立生活と重度訪問介護の対象拡大から～』寺本晃久、岡部耕典、岩橋誠治、末永弘著 生活書院(2015年発行)
- 月刊『ヒューマンライツ』No.377 特集：障害者の自立生活ー相模原障害者殺傷事件から三年(一般社団法人部落解放・人権研究所 2019年8月)

じんけんライブラリーで貸出中!

ふりかえりシートより

- 自然と生活、そして何よりも人と人とのつきあい、関わりの中で生きていく生きあうことの大切さをあらためて感じた。「家族」だけでは辛く、「施設」の中だけでは「管理」が優先されてしまう現実。自立にむけてのサポートのできる「人たち」や「場(事業所・企画)」の必要性・重要性を強く感じた。
- 介助者の方の「彼らが生きているのには、意味がある。」と言っていた言葉がとても印象的でした。私も、もう一度考えてみたいと思いました。

- 好きなことができた時の笑顔。心持が伝わった時の笑顔。大切にしたいものです。
- 障害関係なく、人と人とのふれ合いを感じました。介助者の「ぼくらは止める権利はない、起こらないようにするだけ」という言葉に感動しました。つい安全、正しいことを考えてしまいそうで新しい発見を得られました。
- 「関係の中に生きる」ということをもう一度見つめ直したいと思った。明白じゃないもの、言葉にはできないものを大切にしたい。



スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業

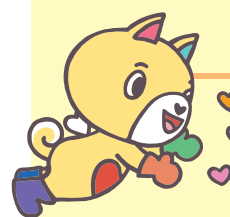
スポーツ教室を開催しました



ゴールを決めたあとに仲間とハグをする特別ルールでゲームをしました



高知ファイティングドッグスと一緒に技術やフェアプレー精神を学びました

令和元年度人権ふれあい支援事業
10団体に支援をしました

● いのちつなぐ

8.25(日)/映画「愛と法」自主上映会&戸田ひかる監督と岡田健一郎高知大学准教授の対談(参加 139名)

● 香南市立野市中学校PTA

9.28(土)/親子講演会(参加 565名)

● 須崎市立須崎小学校PTA

10.26(土)/「命の授業」講演会(参加 約300名)

● 高知市立潮江中学校PTA

11.8(金)/「命の授業」講演会(参加 417名)



● 中土佐町立久礼中学校PTA

11.8(金)/「子どもと保護者が学ぶ命の授業」講演会(参加 186名)

● NPO団体 レインボー高知

11.16(土)/高知レインボー映画祭「空と、木の実と。」「愛と法」性別が、ない(参加 60名)

● 船戸活性化委員会「四万十川源流点」

11.23(土)/歌と語らいコンサート(参加 60名)

● 特定非営利活動法人 キャリア・ライフ高知

11.30(土)/「障がい者雇用への支援と具体的取り組み」(参加 108名)

● 安芸市立穴内小学校PTA

1.23(木)/PTA人権学習研修会(参加 62名)

● (社福)すずめ福祉会 すずめ通所センター

7月～1月/障害福祉の啓発活動～アートで繋ぐ心～

※令和2年度の募集時期などについては、4月以降ホームページをご覧ください。

じんけんライブラリー情報

特集 インターネットによる人権侵害

図書

『高校生が教える先生・保護者のためのLINE教室』

旭LINE同盟、佐藤功 著 (学事出版/2015年)

現役高校生が制作に参加!中高生ならではのLINEの使い方や本音がわかります。

『SNSカウンセリング入門 LINEによるいじめ・自殺予防相談の実践』

杉原保史、宮田智基 著 (北大路書房/2018年)

行政初のLINE相談事業の取り組みを紹介し、その経験知を伝える。短い言葉の交互やり取りによる支援の実践と課題も論じ、今後の展望を拓く。

『ネットのルール(学校では教えてくれない大切なこと⑫)』

旺文社(編) (旺文社/2016年)

『インターネットはなぜ人権侵害の温床になるのか～ネットパトロールがとらえたSNSの危険性～』

吉富康成 著 (ミネルヴァ書房/2014年)

ネット人権侵害の現状を知らせ、盲目的なネット利用に警鐘を鳴らすとともに、その対策の糸口となるネットパトロールの実践を紹介しています。

『ネットと差別扇動 フェイク/ヘイト/部落差別』

部落解放人権研究所(編)

谷口真由美、荻上チキ、津田大介、川口泰司 著 (解放出版社/2019年)

「ネット版部落地名総鑑」事件をはじめとした具体的な事例をもとに、「ネット差別」=「晒し差別」の現状を明らかにする。また、ネット差別の対処法などを提起する。

Pick Up!!

ネットのルール

(学校では教えてくれない大切なこと⑫)

「ネットのルール」をテーマに、自分や相手のことを知る大切さと世の中の様々な仕組みをマンガで紹介しています。



DVD

『インターネットと人権～加害者にも被害者にもならないために～』

法務省人権擁護局、(公財)人権啓発推進センター/東映

『ネット差別を許すな!～川口泰司～(部落の心を伝えたいシリーズ第32巻)』

風楽創作事務所・フルーク映像(株)

差別情報の拡散、「部落地名総鑑」公開など、「ネット」を悪用した部落差別の現実を解説。何が問題で、どう解決するのか、道筋を示す。

「じんけんライブラリー検索」はこちら

所蔵図書・DVDの検索ができます。ぜひご利用ください。

<http://www.kochi-jinken.or.jp/lib/>



「第23回じんけんふれあいフェスタ」を開催しました

「人権週間」(12月4日～10日)の周知と、様々な人権問題について「明るく、楽しく」啓発することを目的に毎年開催しています。今年度は天候にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。人権に関するクイズに答えながら会場をまわる「スタンプクイズラリー」には約450人が、身近に感じる人権問題を問う「シールアンケート」には1,300人以上の方が協力してくれました。

- 日時／令和元年12月8日(日)9:30～15:30 ■ 場所／高知市中央公園
- 主催／高知県、高知県教育委員会、(公財)高知県人権啓発センター
- 来場者数／約10,000人



ご利用案内

出張
します人権研修のための
出前講座

講師派遣料無料

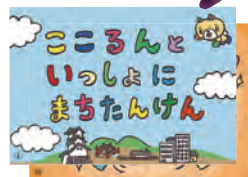
自治体や地域住民・企業・団体などが実施する様々な研修や学習の場に、講師を派遣します。多彩なテーマやプログラムがあります。

貸出
します「こころん」の
着ぐるみ・紙芝居

利用無料

人権について楽しく学び、身近に考えてもらえることを願い、こころんの着ぐるみやオリジナル紙芝居とパペットのセット貸出しを行なっています。

オリジナル紙芝居+パペット ▶



6F

ホール (収容人員 270名 机併用の場合は180名)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

利用時間 9:00～21:00 (年末年始を除く)

基本使用料(平日)			平日時間外	土・日・祝祭日
午 前	午 後	全 日		
9:00-12:00	13:00-17:00	9:00-17:00	1時間あたり	
8,650円	11,570円	18,210円	4,330円	

- 冷暖房使用料 … 1時間 / 620円
- 時間区分には、準備・片付けに要する時間を含みます。



6F ホール

5F

じんけんライブラリー (利用無料)

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

利用時間 月曜日～金曜日(祝祭日・年末年始を除く) 9:00～17:00

- 利用方法
- 初回ご利用の際に、利用カードを発行します。
 - 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者負担)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



団体図書貸出について

小・中学校、高等学校ほか、地域や団体、イベント開催などにあわせて、様々な人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。



5F じんけんライブラリー

詳しい情報は
ホームページを
ご覧ください!



kochi-jinken.or.jp

4F

視聴覚室 (利用無料／収容人員 48名)

人権に関する研修等のにのみ使用できます。

「こころん」は
高知県人権啓発センターの
マスコットキャラクターです



公益財団法人

高知県人権啓発センター

ホームページ

www.kochi-jinken.or.jp

【事務局】〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階
TEL: 088-821-4681 / FAX: 088-821-4440 / E-Mail: center@kochi-jinken.or.jp
【開所時間】月～金 8:30～17:15 (祝祭日・年末年始を除く)



●とさでん交通 バス・路面電車「高知城前」で下車・徒歩3～5分